

図1: 日本人のMS患者におけるヨーネ菌に対する抗体およびT細胞の認識部位

日本人のMS患者では、ヨーネ菌の細胞外領域のMAP2694<sub>295-303</sub>において30%と非常に高いIgG抗体陽性(サルデーニャのMS患者と同頻度)を示した。この部位はT細胞にも認識される。

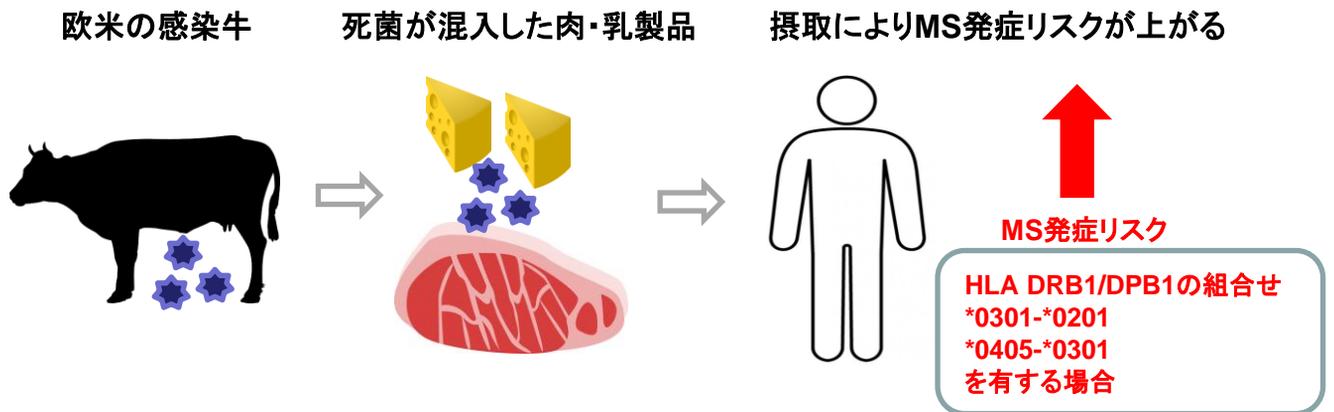


図2: 本研究で明らかになったヨーネ菌とMS発症との関係

日本人とサルデーニャのMS患者では、ある特定のHLAハプロタイプを有する場合にヨーネ菌死菌が混入した肉・乳製品を摂取することでMS発症リスクが高くなっていた。